

* 会員への郵送通知をそのまま掲載しています。文中で「同封」とされているものはここには掲載しておりません。

日本国際文化学会 第8回(2009年度)全国大会

2009年7月4日(土曜)～5日(日曜) / 佐賀大学

開 催 要 領

学会にご参加の方は、同封いたしました「返信用ハガキ」に必要事項をご記入の上、6月12日(金曜)[必着]までに実行委員会(佐賀大学)へ御返送ください。

大会参加費は同封の「郵便振替用紙」 加入者名：日本国際文化学会佐賀大学大会 / 口座番号：01730-8-121365 で事前にお支払いください。お弁当や情報交換会をお申込みの場合、その費用も併せてご入金ください。

上記の郵便振替口座に、他の金融機関(銀行など)からも入金できます。その場合には
ゆうちょ銀行 加入者名は同上 支店名「一七九店(いちななきゅう) / 店番179」
種目「2当座預金」 口座番号「0121365」に入金手続きを願います。

(1) 開催日時・場所

日時：2009年7月4日(土曜)～5日(日曜)

会場：佐賀大学(本庄キャンパス) / 佐賀市本庄町1番地 [巻末の佐賀市地図・構内配置図を参照]

(2) 大会プログラム

大会1日目：7月4日(土曜)

09:00～11:00	自由論題(A～E) / 教養教育1号館	[詳細は下欄(9)]
11:15～13:15	共通論題(1～4) / 教養教育1号館	[下欄(10)]
13:45～14:15	総会 / 教養教育1号館	
14:15～17:30	公開シンポジウム「礎の気骨」 / 教養教育2号館	[下欄(11)]
17:40～18:10	ギターコンサート / 教養教育2号館	[下欄(12)]
18:30～20:30	情報交換会 / 学内「大学会館」2階	[下欄(5)]

大会2日目：7月5日(日曜)

09:00～11:00	自由論題(F～J) / 教養教育1号館	[下欄(9)]
11:15～13:15	共通論題(5～9) / 教養教育1号館	[下欄(10)]
14:00～17:00	公開シンポジウム「土の記憶」 / 教養教育2号館	[下欄(11)]

常任理事会・理事会：大会前日の7月3日(金)18時より教養教育1号館「教養教育運営機構会議室」で開催。

【おことわり】4～5日の全体シンポジウムは、一般市民にも開放する企画のため、来場者多数により教室の収容人数をオーバーする場合、別室へご案内し、同時中継のモニター画面でご辛抱いただくことがあります。あらかじめ御了承のうえ、当日はお早めにご来場ください。

(3) 大会参加費について

大会参加費：大会参加費は、2000円（ただし、大学院生・学部生は1000円）です。

支払い方法：大会参加費については、同封の「郵便振替用紙」にて事前にお支払い下さいますよう、皆さまのご協力をお願い致します。

(4) 昼食について

お弁当のご注文：両日とも、ご希望の方には、お弁当（1食800円）をご用意いたします。お弁当をご注文される方は、同封の「返信用ハガキ」の「昼食注文欄」に丸印（ ）を付けられた上、同じく同封の「郵便振替用紙」にて弁当代金を事前にお納め願います。

生協等でのお食事：両日とも、学内の生協食堂の営業を行ないます。また、大学周辺にもコンビニや弁当店のほか、しばらく歩いた所に飲食店も複数ございます。こちらもご利用ください。

(5) 情報交換会について

日時・場所：7月4日（土曜）18:30より、学内「大学会館」2階の多目的ホールにおいて開催。

会費：5000円（ただし、大学院生・学部生は3000円）。ご参加の方は、同封の「返信用ハガキ」の「情報交換会欄」に丸印（ ）を付けられた上で、同じく同封の「郵便振替用紙」にて会費を事前にお納め願います。

備考：4日「磯の気骨」シンポジウム後半に引きつづき、この情報交換会の席上でも、西村正秀さんがギター演奏をご披露くださいます！

(6) 託児サービスについて

託児サービス：お子様ご同伴の方に、託児サービスをご用意いたします。お申込み（料金等のお尋ね）は佐賀大学・吉住研究室（電話：0952-28-8344）へ、6月8日（月）までに御連絡ください。

(7) 佐賀空港および福岡空港へのバス運行

戻りの空港への直行バス：第2日目（7月5日）の学会の全日程終了後、佐賀空港ならびに福岡空港への直行バスを運行する予定です。ただし、いずれも事前予約者25名以上の場合のみ運行します。

直行バスご利用を希望される方は「返信用ハガキ」の直行バス欄に丸印（ ）をお付けください。

佐賀空港行き 佐賀大学17:30出発。佐賀空港まで約40分。羽田行き18:55発の最終便に接続。

バス運賃1000円（運賃は当日徴収）

福岡空港行き 佐賀大学17:30出発。19時過ぎに福岡空港到着、各方面へ飛行機があります（福岡空港からJR博多駅まで地下鉄を使えば10分程度で移動可）。バス運賃1500円（運賃は当日徴収）

(8) ホテルの手配について

ご宿泊先ホテルの手配：ご希望の方に、佐賀市内のホテルの候補をご提示いたします。同封の「日本旅行・佐賀支店」の案内書類を御覧のうえ、同支店（担当・未安）に直接お申し込みください。

ご予約：日本旅行・佐賀支店は、電話0952-24-2218、FAX24-8802。同支店のホームページ（<http://ep.nta.co.jp/saga/index.php>）の画面右側にある「宿ぷらざ」からも予約可能です。ホテルとともに航空機の手配等をご希望の際は、直接お電話でお申し付けください。

(9) 大会プログラム「自由論題」報告

第1日目：7月4日(土) 09:00～11:00 / 教養教育棟1号館

[09:00～09:30 / 09:30～10:00 / 10:00～10:30 / 10:30～11:00]

【 A 】 生活・環境 (司会：松井賢一)

奥田孝晴(文教大学)「連帯の経済学」への視座を求めて フェアトレード運動と「市民力」成長会計に関する一考察

芝崎厚士(駒澤大学) 恐怖・文化・文明 国際文化論的考察

岡内一樹(京都大学) 大気汚染へのドイツ技術者の視座 1960年代を中心とした日本との比較史的考察

大庭弘継(九州大学) 試論：世界像の形成と生活世界 悲劇が照らし出す国際社会 / 共同体

【 B 】 マイノリティ (司会：木原誠)

塩崎公靖(法政大学) バスク・ナショナリズムによるアイルランド・ナショナリズムの「参照」

吉田優佳(佐賀大学) 墓場のボブ・マーリー

山川貴美代(龍谷大学) シンガポールにおける南アジア系コミュニティ

野上恵美(神戸大学) 「多文化共生」言説のエスニック・マイノリティを巡る問題の所在について 在日ベトナム人を事例に

【 C 】 アジアの文化 (司会：木下資一)

(9時30分・より開始)

張雷(東海大学) 中国の結社文化と「幫会」の歴史の変容

李惠燕(東北芸工大学) 日韓の産育習俗について 韓国の聞き書きを中心に

村上めぐみ(龍谷大学) 中国雲南省緑春県ハニ族の色彩認識に関する研究

【 D 】 日本 (司会：鳥飼玖美子)

吉住磨子(佐賀大学) キリシタン美術にみる外来文化の受容

中尾友香梨(佐賀大学) 江戸時代の外来文化の伝達と情報ネットワーク

武市一成(法政大学) ローマ字のつづり方論争に見る「国際性」の問題 1954年内閣告示第1号を中心に

飯田汎(放送大学) ニッポン人の心性と社会変革にむけた考察【その1】

【 E 】 アジア (司会：川村陶子)

(9時30分・より開始)

池上大祐(九州大学) アメリカの戦後太平洋秩序構想と従属地域 1942～47年 「南太平洋委員会」設立過程の文脈から

石川孝樹(元明台学院大学) 創られた概念・『国際交流』 交易都市「ヨコハマ」の「国際交流運動」の事例から

椎野信雄(文教大学) 「日本語」へのエスノメソドロジック的アプローチ：パート4「アジア」の概念分析

【報告者へのお願い】 報告時にパソコンをご使用の方は、ご自身のパソコンをご持参の上、自由論題セッションが始まる前に、教室内のプロジェクターに接続して、必ず動作確認を済ませてください。報告当日にレジュメを配布される場合、お一人60部ずつ、ご自身でコピーしてお持ち下さい。

第2日目：7月5日（日）09:00～11:00 / 教養教育棟1号館

[09:00～09:30 / 09:30～10:00 / 10:00～10:30 / 10:30～11:00]

【 F 】 西洋思想（司会：田村栄子）

（9時30分・より開始）

市川直子（無所属）ジョルジョ・デ・キリコ作《ローマの風景》をめぐって

村上宏昭（関西大学）「裁きの父」から「死の老衰」へ ドイツ青年補給隊における「非青年」の変貌

吉田和久（帝京科学大学）文献学とモダニティーのあいだ エーリッヒ・アウエルバッハの《フィグーラ》をめぐって

【 G 】 運動（司会：若林一平）

間ふさ子（福岡大学）1943年の台湾における『吼える支那』上演について 上演効果という点からの再検討

尹虎（法政大学）間島における共産主義運動の特徴

竹本真希子（広島市立大学広島平和研究所）亡命知識人の反ナチス抵抗運動

桐谷多恵子（法政大学）広島青年文化連盟と峠三吉の活動

【 H 】 文学・マンガ（司会：岡真理子）

鈴木繁（佐賀大学）「旅」するポーと「旅行」するホーソーン 客死した二人のアメリカ作家

中村優子（立教大学）マンガの「間」：その時間的・空間的スペースの特殊性と異文化間での解釈の差についての一考察

浅利文子（法政大学）村上春樹の中国 『中国行きのスロウ・ボート』という視点から

大塚綾子（佐賀大学）歴史の「闇の奥」ウィーンに潜む『第三の男』 影（第三の男）を操る影（第四の男）

【 I 】 教育（司会：熊田泰章）

高仁淑（九州大学）ニュージーランドにおけるアジア人留学生調査

堤ともみ（西南学院大学）津田梅子の教育 異文化の狭間で

山崎和美（東北大学）イランの近代教育と女性の活動

村田幸代（龍谷大学）明治・大正期における子どもの権利思想の展開 田村直臣・西山哲治・賀川豊彦の教育実践を中心に

【 J 】 メディア産業（司会：白石さや）

（9時30分・より開始）

金澤佳子（中部大学）国際博覧会に見るネオ・ムデハル建築様式 メキシコ・パビリオン完成への経緯

齋藤絢（日本大学）韓国における日本歌謡競争要因に関する一考察 朝鮮半島化期の近代音楽成立過程と日本音楽との関連性

内藤耕（東海大学）ポスト・スバルト時代の地方文化の担い手 地方テレビ局の乱立をめぐって

【報告者へのお願い】 報告時にパソコンをご使用の方は、ご自身のパソコンをご持参の上、自由論題セッションが始まる前に、教室内のプロジェクターに接続して、必ず動作確認を済ませてください。
報告当日にレジュメを配布される場合、お一人60部ずつ、ご自身でコピーしてお持ち下さい。

(10) 大会プログラム「共通論題」報告

第1日目：7月4日(土) 11:15～13:15 / 教養教育棟1号館

- 【 1 】 Globalization of Care 高齢社会日本における外国人介護労働者の受け入れ
鈴木伸枝(千葉大学教授) 在日フィリピン人がみる介護労働 介護福祉士になること・介護士を避けることを中心に
高畑幸(広島国際学院大学講師) 介護職と社会的評価、日本人との関係性の变化～在日フィリピン人を事例として
中井久子(大阪人間科学大学教授) 外国人介護労働者の日本の就労に関する意識と課題
後藤由美子(高知女子大学准教授) 外国人を受け入れる施設側が期待するもの
カルロス、マリアレイナルス・D(龍谷大学准教授) フィリピン人看護学生の海外就労先選択行動：受け入れ国としての日本へのインプリケーション[兼・司会]
- 【 2 】 戦間期のアジア太平洋地域：太平洋問題調査会(IPR)の活動とその時代を中心に
山内晴子(玉川聖学院非常勤講師/早稲田大学 IPR 研究所客員研究員) 朝河貴一：ACLS日本研究委員会とIPR
飯森和子(常磐大学国際学部非常勤講師) 第1回第3回IPR参加者、小中隆の国際交流活動・戦前を中心に
福井七子(関西大学外国語学部教授) IPR ニューヨーク会議：参加メンバーと日本人論に関する議論
[司会] 山岡道男(早稲田大学) / [司会] 片桐庸夫(群馬県立女子大学)
- 【 3 】 多様な「共生」を解き明かす：国際文化学をめざすもの
[司会・問題提起] 斎藤文彦(龍谷大学国際文化学部教授)
清水耕介(龍谷大学国際文化学部准教授) 国際関係論と「共生思想」の推移
斎藤文彦(龍谷大学国際文化学部教授) 開発倫理学と「共生思想」の意義
ナギ・スティーブン・ロバート(早稲田大学アジア太平洋研究センター助手) 日本の共生現場の取り組みと多文化主義
[コメンテータ] 平野健一郎(東京大学・早稲田大学名誉教授)
- ラベリング・ポリティクス
【 4 】 表象政治の解剖学 マジョリティ/マイノリティ二元論の内破に向けて
土屋明広(岩手大学教育学部准教授) 「日本人」になる/される子どもたち 学校におけるマイノリティ[兼・司会]
吉岡剛彦(佐賀大学文化教育学部准教授) 日本人の脱構築 国籍・差異・偶然
江口布由子(佐賀大学文化教育学部非常勤講師) 捨て子 近代ヨーロッパのマイノリティ
上田竹志(九州大学法学部准教授) 法廷の開放性/閉鎖性 曝されるものとしてのマイノリティ

【報告者へのお願い】 報告時にパソコンをご使用の方は、ご自身のパソコンをご持参の上、共通論題セッションが始まる前に、教室内のプロジェクターに接続し、必ず動作確認を済ませてください。報告当日にレジュメを配布される場合、お一人60部ずつ、ご自身でコピーしてお持ち下さい。

第2日目：7月5日（日）11:15～13:15 / 教養教育棟1号館

〔 5 〕 新自由主義と「伝統」の再構築

長谷川一年（島根大学准教授）新自由主義時代における国家／権力の変容

藪田謙一郎（同志社大学嘱託講師）グローバル化と「伝統」としての中国社会主義

竹島博之（福岡教育大学准教授）多文化状況における愛国心教育

大村和正（立命館大学非常勤講師）イギリスにおける新自由主義的な教育政策 プレア政権の継続教育政策を中心に

〔司会〕伊藤豊（山研大学准教授）

〔 6 〕 『学生三代記 野球の巻』にみる昭和初期のモダン文化

映画上映：『学生三代記 野球の巻』

郷田真理子（特定非営利活動法人映画保存協会）映画フィルムの復元と保存～『学生三代記』の復元から～

山梨牧子（早稲田大学演劇博物館COE研究員、宝塚映画祭実行委員）宝塚という温泉町に育ったレジャー：芸能事情とモダンガール

鈴木裕輔（法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）『学生三代記 野球の巻』にみるスポーツと放送

〔 7 〕 次世代に残すアジアの文化と技術(3)

松本年史（東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授）少数民族社会に学ぶ次世代に残すアジアの文化と技術 / part 2

ディニル・プシュパール（東北大学大学院国際文化研究科教授）次世代に残すべきアジアの非肉食文化の再検討

戸田泰男（共立女子大学家政学部建築・デザイン学科准教授）「熱の伝達の三形態」から見た「文化の伝播」

安斎弘樹（鶴岡工業高等専門学校制御情報工学科准教授）世界の内の日本の雷文化と雷対策技術

〔司会〕高橋礼二郎（東北大学大学院国際文化研究科客員教授）

〔 8 〕 人間をめぐる文化関係学 自然、動物、人間

高橋良輔（佐賀大学文化教育学部国際文化課程講師）人間と人間 多文化主義と他者化のポリティクス 承認をめぐる政治の再検討

後藤正英（佐賀大学文化教育学部国際文化課程講師）動物と人間 動物倫理の諸相 応用倫理学と文化論の観点から

中村聡（佐賀大学文化教育学部人間環境学准教授）自然と人間 「青き清浄の地」としての里山

〔司会〕吉住磨子（佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程准教授）

〔 9 〕 世界遺産への視線

中島成久（法政大学国際文化学部教授）趣旨説明、世界遺産をめぐる文化の政治学へ向けて [企画代表者]

笹川秀夫（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）世界遺産と文化ナショナリズム、国際武力紛争 カンボジア＝タイ間におけるプレア・ヴィヒア遺跡問題

永淵康之（名古屋工業大学大学院工学研究科教授）なぜブサキ寺院は世界遺産にならないのか パリ島における世界遺産をめぐる政治的、文化的抗争の背景

清水展（京都大学東南アジア研究所教授）資源としてのイフガオの棚田 遺産相続者たちの思惑

〔司会〕斎藤文彦（龍谷大学国際文化学部教授）

(11)大会プログラム「ダブル公開シンポジウム」

第1日目：7月4日（土）14:15～17:30 / 教養教育2号館211教室

「A面 / B面の国際文化学：うらがえす知のたくらみ」(国際文化学のポリティクス / 社会の巻)

第一幕：^{つぶて}礫の気骨 九州の闇を掘る

【製鉄、炭坑、腐海（水俣病）ハンセン病 ^{グローバルゼーション} 高度成長に翻弄されたローカルの闇を掘る】

〔語り〕 佐木 隆三（作家）

「官営八幡製鉄所の大ストライキ 1920年」

荻野 喜弘（九州産業大学）

「地底からのメッセージ」

板井八重子（熊本・くすのきクリニック院長）

「水俣 胎児との約束」

久保井 撰（九州合同法律事務所・弁護士）

「被害を語るということ ハンセン病国賠訴訟から」

コメンテーター：田村栄子（元佐賀大学文化教育学部）

司会：鬼嶋淳（佐賀大学文化教育学部）

シンポジウム終了後、引きつづき、同じ会場において、

西村正秀ギターコンサート「こだまの夢 土と陰影の響き」を開催（17:40～18:10）

第2日目：7月5日（日）14:00～17:00 / 教養教育2号館211教室

「A面 / B面の国際文化学：うらがえす知のたくらみ」(国際文化学のポエティクス / 文化の巻)

第二幕：^{かげ}土の記憶 陰影のなかの文化

【自然と文明の際、^{アダマー}<土 / 器>を枕に、文化の陰影・奥行きに宿る死者の記憶・伝統に迫る】

〔語り〕 色鍋島十四代今泉今右衛門（陶芸家）

「伝統のもつ 継承 の意味について」

京極 夏彦（小説家）

「概念としての 土 ～土着、土俗～」

波平恵美子（元日本文化人類学会会長）

「土に帰るといふ表現と死生観」

尾形希和子（沖縄県立芸術大学）

「西洋文化における土 / 大地の表象 中世美術を中心に」

司会：相野毅（佐賀大学文化教育学部）

(12)大会プログラム「西村正秀ギターコンサート」

第1日目：7月4日(土) 17:40～18:10 / 教養教育2号館211教室
西村正秀ギターコンサート「こだまの夢 土と陰影の響き」

西村正秀(ギタリスト)プロフィール：

クラシック・ギターを莊村清志、荻津節男に師事。日本大学芸術学部で原善信に学び、1994年卒業。同年からマドリッドに渡り、映画『禁じられた遊び』の音楽で有名な故ナルシソ・イエペスの最後の弟子として学び、スペイン王立音楽院にて、スペイン現代音楽プレイヤーのスペシャリストでもあるガブリエル・エスタレージャスの元で学ぶ。留学中、マドリッド近郊やロンドンなどでリサイタルを行う。中でも97年、没後のイエペスの追悼音楽祭「オメナヘ・ア・ナルシソ・イエペス」に、8人の選ばれた弟子の1人として参加し注目を浴びる。97年同音学院を卒業し、98年帰国。2000年には小野貴史など4人の邦人作曲家の委嘱作品を含むギターのために作曲された現代の作品のみをリサイタルで積極的に取り上げ、注目される。また鈴木大介のCDなどにギター・デュオとして参加し高い評価を得る。04年5月、東京オペラシティ・リサイタルホールにて正式にデビューリサイタルを果たし、NHK・FM「名曲リサイタル」出演、ソロの他に、多くの奏者と競演するなど幅広く活動している。

(13)大会全般に関するお問い合わせ

大会に関するお問い合わせは、佐賀大学文化教育学部・吉岡剛彦研究室までお願いします。

電話(直通): 0952-28-8274

メール: yoshiota[at]cc.saga-u.ac.jp ([at]を@に置き換える)

[件名に「国際文化学会」の語をお入れ願います]

(14)大会会場(佐賀大学・本庄キャンパス)までの交通アクセス

佐賀駅までの主なルート：

- ・佐賀空港から：羽田空港発および伊丹空港発。
佐賀空港から佐賀駅まで30分前後。
- ・福岡空港から：福岡空港から佐賀駅直行高速バスで90分。福岡空港から地下鉄(約10分)でJR博多駅へ、更に特急列車で35分。
- ・JR博多駅から：特急で35分(毎時2本)

佐賀駅から佐賀大学まで：

- ・佐賀駅バスセンター「4番のりば」より、
11番：佐賀大学経由、相応行き または、
12番：佐賀大学経由、東与賀行き 乗車、
「佐大前」バス停で下車。バス所用時間20分。

帰りの交通手段(主な都市への最終便)：

- ・佐賀空港発の航空機：
 - > 伊丹空港行き最終17:40(ANA)
 - > 羽田空港行き最終18:55(ANA)
- ・福岡空港発の航空機：
 - > 仙台空港行き最終16:45(JAL)
 - > 伊丹空港行き最終19:25(ANA)
 - > 那覇空港行き最終20:15(ANA)
 - > 名古屋(中部)最終20:30(ANA)
 - > 羽田空港行き最終21:30(ANA)
- ・JR博多駅発の新幹線：
 - > 新大阪行き最終21:11(こだま)



* 最終便時刻は5月時のものです。7月の時刻表は各自ご確認ください。

(15)大会会場キャンパス・マップ(構内配置図)

